

主催：名護博物館、上野英信三十三年忌記念事業実行委員会  
協力：福岡市文学館（福岡市文学振興事業実行委員会・福岡市教育委員会）

上野英信三十三年忌記念展示会

2019年

11月

15日

金

24日

日

◎名護博物館ギャラリー

— 入場無料 — 月曜休館

10時▼18時

「眉屋私記」上野英信と

【お問い合わせ】

名護博物館 〒905-0021 沖縄県名護市東江1-8-11

TEL: 0980-53-1342 FAX: 0980-53-1362

ホームページ <http://www.city.nago.okinawa.jp/museum/>

ブログ「日々のなごはく」 <http://d.hatena.ne.jp/nagohaku/>

メール [nagohaku-info@city.nago.lg.jp](mailto:nagohaku-info@city.nago.lg.jp)

『眉屋私記』（潮出版社 発行、上野英信 著、田村義也 装幀）より表紙図案を引用



「これ、読んでみませんか」

炭鉱労働者を記録し世に突き付けた記録文学者「上野英信」と、沖縄本島北部、名護市屋部の「眉屋（山入端一族の屋号）」との出会いのきっかけは、『西表炭坑概史』の著者である三木健から手渡された『わが移民記』という小さな冊子だった。それは、1900年代初頭に炭鉱移民としてメキシコに渡った山入端家の長男・山入端萬栄の手記をまとめた冊子で、炭鉱について書き続けてきた上野をも知り得なかった炭鉱移民の歴史が刻まれていた。そのことに衝撃を受けた上野は『眉屋私記』を書くことを決意し、以降、1977年から7年間、取材のため足繁く沖縄に通い、萬栄の足取りを追ってメキシコにも渡る。

もう一人の主人公となる萬栄の末妹のツルとは何十回、幾十日と会い、話を聞き、眉屋一族の物語を引き出し紡いだ。ツルはその壮絶な人生を語るにあたって、上野の誠意と誠実さを信じ、常に毅然とした態度を失することなく協力を惜しまなかつた。眉屋のある名護市屋部においてもそれは同じで、対峙する者が残そうとする声に真摯に向き合うその姿と人柄に、出会った人々全てが上野を慕った。

取材を通して多くの沖縄の人々とその心に触れ、愛し、そして愛された上野英信。『眉屋私記』が刊行された1984年には出版祝賀会が那覇と屋部で行われ、屋部区民から名誉区民と字史編さん事業の最高顧問にと請われた際には、「屋部区出身作家として頑張ります」と宣言し拍手をあびた。屋部は故郷だと話し、『眉屋私記』戦後編執筆の構想を語った上野だったが、1987年11月、病いのため64歳の生涯を閉じる。上野が「故郷だ」と語った屋部でも偲ぶ会が開催され、1988年12月には一周忌の集いを那覇で開催。その際に刊行された追悼文集『上野英信と沖縄』は、人を愛し、話を好み、酒をよく嗜んだ上野が多くの人々に愛されたことを示している。

上野英信がこの世を去ってから33年忌を迎える。名護博物館では企画展「上野英信と『眉屋私記』」を開催し、改めて上野英信の仕事と代表作『眉屋私記』の価値を考え、この節目に上野の「故郷」である屋部で「上野英信さんを偲ぶ33年忌の集いーウワイズーコー」を開催する。

## 関連企画

### 『眉屋私記』を歩く(屋部集落散策)

日時: 11月17日(日) 10:00~12:30  
場所: 名護市役所屋部支所前(集合)  
料金: 200円 定員: 25名(先着順)  
※名護博物館へ事前申し込みが必要です

### 名桜大学主催講演会(講座: 大学と人生)

#### 上野英信と『眉屋私記』

日時: 11月18日(月) 14:45~16:15  
場所: 名桜大学多目的ホール[入場無料]  
講師: 仲程昌徳(元琉球大学教授)

### 上野英信33年忌記念講演会

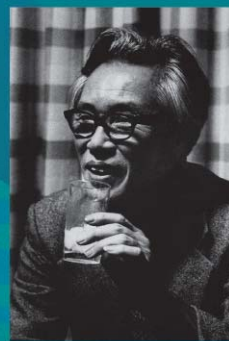
日時: 11月22日(金) 16:00~18:00  
場所: ひめゆりピースホール[入場無料]  
那覇市安里388-1(栄町市場内)  
講師: 松下博文、上野朱、秋友かんな  
進行: 三木健

### 上野英信さんを偲ぶ33年忌の集い

#### ーウワイズーコーー

日時: 11月23日(土/勤労感謝の日)  
17:00~20:00  
場所: 屋部公民館 会費: 2,000円  
語り: 我部政男、上野朱、比嘉ゆり子 他

※詳しい内容は博物館へお問合せ下さい



上野英信(うへの ひでのぶ)

1923年(大正12年)山口県に生まれる。1947年(昭和22年)京都大学支那文学科を中退して炭鉱に入り、1957年(昭和32年)まで海老津炭鉱、高松炭鉱、崎戸炭鉱等で坑夫として働く。その頃から炭鉱労働者の文学運動を組織するとともに、炭鉱についてのルポルタージュを書き続けた記録文学者。1987年(昭和62年)11月21日逝去。  
著書に『せんぶりせんじが笑った!』『親と子の夜』『追われゆく坑夫たち』『日本陥没期』『地の底の笑い話』『天皇陛下萬歳一爆弾三勇士序説』『骨を噛む』『日本陥没期: 地底に奪われた死者たち』『出ニッポン記』『炭鉱譜』『火を掘る日』『ひとくわぼり』『眉屋私記』などがある。



『眉屋私記』(まゆやしき)

潮出版社1984年3月/海鳥社2014年11月

上野英信の晩年の代表作。沖縄本島北部、屋部の山入端一族(屋号:眉屋)の生きざまを通して、近代沖縄民衆の歩みを描いた長編記録文学。  
1908年(明治41年)に炭坑移民でメキシコに渡り、その後メキシコ革命の戦乱をくり抜けてキューバに渡った山入端萬栄の生涯をタテ糸に、家と家族を護るため辻遊郭に売られた姉妹、特に末妹のツルの生涯をヨコ糸に一族の歴史を描いている。1984年12月に第5回沖縄タイムス出版文化賞(正賞)受賞。1984年3月31日には那覇で、翌4月1日には屋部公民館で出版祝賀会が開催されている。

写真: 屋部の浜辺にたたずむ上野英信  
(1987年1月、最後の来沖/撮影: 岡友幸)

島の神の息